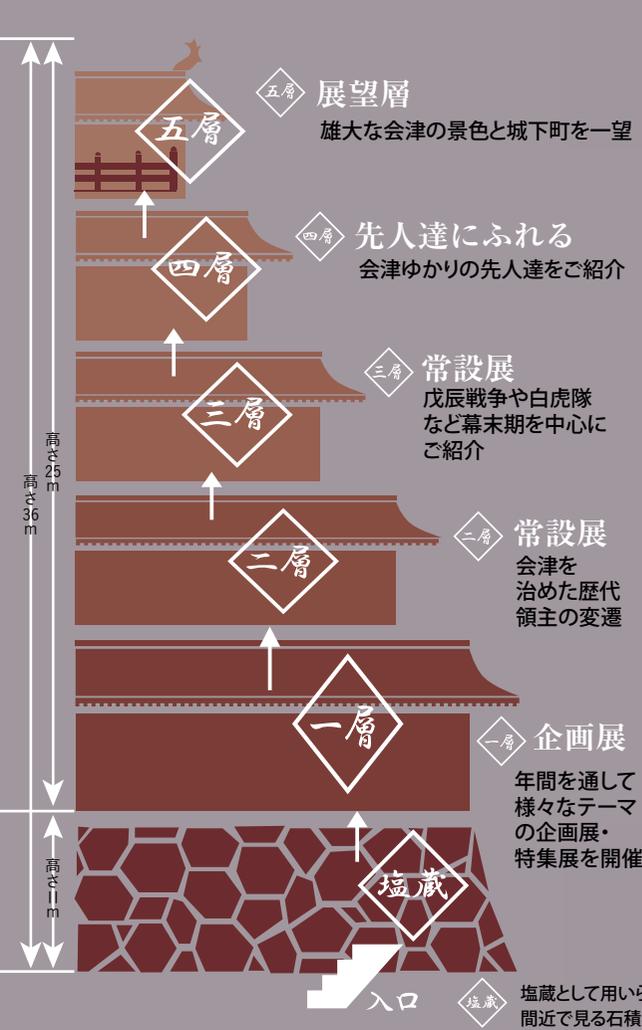


鶴ヶ城で会津の歴史を楽しく学ぼう！

天守閣内は郷土博物館として会津の歴史や文化をご紹介します。



復元された南走長屋・干飯槽

干飯槽は鶴ヶ城内にあった11棟の槽の中で一番規模の大きかった槽です。文字通り「食糧庫」であったと考えられています。



鶴ヶ城ではオリジナル商品をはじめ、会津の銘菓やお土産を多数用意しております。

鶴ヶ城歴代領主の変遷

葦名家



1384(至徳元年)/葦名直盛が東黒川館を建てる。

伊達家



1589(天正17年)/伊達政宗が会津に入る。

蒲生家



1590(天正18年)/蒲生氏郷が会津領主として黒川城に入城。
1593(文禄2年)/七層の天守閣完成。黒川を若松に改め町割りを作る。名前も鶴ヶ城と命名。

加藤家



1627(寛永4年)/伊予松山から加藤嘉明が会津に入る。
1639(寛永16年)/天守閣は五層に改められ、西出丸、北出丸が整備される。

保科家



1643(寛永20年)/嘉明の子・明成が会津40万石を幕府に召し上げられる。三代将軍家光の弟・保科正之が最上から23万石で入封。

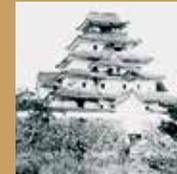
松平家



1862(文久2年)/容保京都守護職を命じられる。
1868(慶応4年)/戊辰戦争がおきる。
1ヶ月の籠城の末、鶴ヶ城開城。



蒲生氏郷は、鶴ヶ城の生みの親。統治した期間は短かったが、地名を「若松」に改め、城下町の基盤を作り、今よりも高い七層の鶴ヶ城を築き、茶室麟閣も建てられた。



1874年/鶴ヶ城取り壊し。
1965年/天守閣再建工事落成。
1984年/築城600年記念式典。
1990年/茶室麟閣を本丸内に移築。
2000年/干飯槽・南走長屋を復元。
2011年/天守閣屋根瓦を赤瓦に置き替え完成。
2015年/天守閣再建50周年(内部をリニューアル)

上杉家



1598(慶長3年)/上杉景勝が会津入りし、出羽3郡、佐渡3郡を加えて120万石となる。

蒲生家



1601(慶長6年)/上杉景勝が米沢に転じ、蒲生氏郷の子・秀行が会津に入る。

幕末の戊辰戦争では約一ヶ月に及ぶ戦いが鶴ヶ城を中心に行われた。鶴ヶ城は砲弾にさらされ傷つき荒れ果てた。戊辰戦争後天守閣は政府の命令により取り壊された。市民の願いが叶い、天守閣が復元されたのは昭和40年のことである。



茶室麟閣



天正19年、千利休は豊臣秀吉の怒りにふれ、死を命じられました。この時、千利休の茶道が途絶えることを惜しんだ会津の領主、蒲生氏郷は、利休の子の少庵を会津に匿い、豊臣秀吉に『千家再興』を願いました。この結果、少庵は京都へ帰り、千家茶道は少庵の子の宗且に引き継がれ、その孫により武者小路千家、表千家、裏千家の三千家が興され現在に伝えられています。

この「麟閣」は少庵が会津に匿われていた時、氏郷のために造ったと伝えられており、戊辰戦争後は茶人森川善兵衛宅で大切に保存されてきました。

会津若松市では平成2年、市制90周年を記念し、この麟閣を元の場所へ移築復元し後世へ伝えるものです。

